
平成 28 年

8 月の普及活動状況

ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課(農業革新支援センター)の取組～



岐阜県農政部農業経営課

活力ある新産地づくり

下呂農林■スイートコーン 「南飛驒コーン」の魅力発信 ～試食販売会を実施～

7月下旬～8月中旬、下呂市スイートコーン研究会は市内直売所等4カ所にて「南飛驒コーン」の試食販売会を延べ6回実施した。

農業普及課では事前にチラシを作成し、新聞折込にて周知したほか、のぼりやポップを作成、設置し、PRを図った。

試食した消費者からは「甘くて美味しい」「こんなに甘いコーンは食べたことが無い」との声が聞こえ、好評のうちに売切れた。

今後は秋にかけて「南飛驒コーン」の加工品づくりを支援し、販売期間の拡大や販売単価の向上を図る。



【南飛驒コーンを買いたい求める消費者】

多様な担い手づくり

岐阜農林■いちご 就農応援隊結団式で新規就農者が将来の夢を発表

8月23日、ぎふ清流文化プラザにおいて、岐阜就農応援隊結団式が開催され、応援隊員、新規就農者、農業担い手リーダーなど約330名が出席し、盛大に執り行われた。

結団式後の岐阜地域農業担い手情報交換会では、岐阜市のいちご生産者が新規就農者を代表して、新規就農の事例発表を行った。JA全農岐阜のいちご新規就農者研修所での思い出や就農した後に直面した課題とその対応、また、自らの夢や産地としての将来ビジョンなどについて、力強い意欲表明があった。

農業普及課では、今回の事例発表に向け、発表内容の聞き取りや資料作成などの支援を行っており、今後も、関係機関と連携し、新規就農者の支援を継続していく予定である。



【事例発表の様子】

西濃農林■担い手支援 海津就農応援隊結団式開催

8月11日に新規就農者の育成確保をさらに加速するため、新規就農者を地域ぐるみで応援する「海津就農応援隊」が結成され、その結団式が、海津市夏祭り会場にて実施された。多くの海津市民、関係者が集まる中、結団式が高らかにとり行われた。



中濃農林■担い手支援 中濃地域の農業を語る会

11月10日～11日、岐阜県において「広げよう！つなげよう！未来の農業へ」を大会テーマに「第19回全国農業担い手サミットinぎふ」を開催し、県下10地域の実行委員会が地域交流会を行う。

中濃地域実行委員会では大会の成功に向けて、8月25日にみの観光ホテルで管内の農業担い手リーダー等と「中濃地域の農業を語る会」



【小川委員長挨拶】

を開催し、気運の盛り上げと担い手育成等について意見交換を行った。

農業普及課も実行委員会の事務局として、地域交流会の情報交換会と現地研修会の企画、運営を行う。

可茂農林■担い手支援 **とどけ!我らのメッセージ!!**

可茂地区の若手農業者で構成する可茂地区青年農業士会、可茂地区4Hクラブ連絡協議会の会員が、「第19回全国農業担い手サミット in ぎふ」の開催を前に、「応援メッセージボード」をJR美濃太田駅南口ロータリーの歩道脇に設置された。

「応援メッセージボード」は、会員が農作業の合間の時間を使って作成し、「サミット」のPRと「農業に対する熱い思い」を込めて、会員12名全員のメッセージを掲載している。農林事務所は、所長を中心に、企画・提案から支援し、設置を行って、農業を囲む関係者が一つになるきっかけと期待している。



【若い農業者と関係者】

可茂農林■新規就農支援 **新規就農計画3件を認定予定**

白川町で青年等就農計画の申請が3件あり、8月16日に白川町・地元農業委員・農業普及課で申請者と面接を行った。3名とも昨年ゆうきハートネットの会員から有機農法の研修を受け、4月から就農している。面接では農業への考え方や、就農状況、今後の計画等について質疑が行われた。3名とも農業経営者として意欲的に活動しており、地元住民や農業者との交流も積極的である。農業普及課では引き続き新規就農者への支援を継続していく。



【面接の様子】

東濃農林■担い手支援 **東濃就農応援隊結団式開催**

8月30日に瑞浪市総合文化センターにおいて東濃就農応援隊が設立された。

応援隊は、11月10日～11日に開催される全国農業担い手サミットの開催に向け、新規就農者を地域ぐるみで応援するために管内23団体が集まり設立された。

応援隊設立後、管内の農業者、新規就農者等約150人が一堂に会して結団式を行い、新規就農者の農業に対する決意表明の後、地域農業の発展を願って参加者全員で「がんばろう宣言」を行った。

農業普及課としては、これを機にさらに新規就農者の発掘及び支援を行い、地域農業の発展を推進していきたい。



【がんばろう宣言する応援隊】

売れるブランドづくり

揖斐農林■柿 **大野町産地協議会の取組み — 「富有柿倶楽部」 岐阜大学で開講 —**

大野町柿産地協議会では、岐阜大学が開講する「富有柿倶楽部」に協力している。「富有柿倶楽部」は年4回開講され、岐阜県ブランドの一つである富有柿を題材として多方面から学び、若者からみた富有柿の魅力を提案するというもの。今回、事前講義（8月25日、学生16名参加）が開講され、農業普及課からは「岐阜県及び大野町の柿栽培」、JAいび川からは「大野の富有柿の生産と出荷」、岐阜大学からは、「柿



【講義の様子】

の種類と特性」「柿の貯蔵と流通」についての講義があった。今後は収穫・加工、剪定体験を通じ現地生産者との交流が予定されており、大野町柿産地協議会が一体となってこの取組みを支援していく。

郡上農林 ■ 夏秋トマト 徹夜踊り開催日に冷やしトマトをPR販売

郡上トマトの知名度を高めようと郡上園芸特産振興会夏秋トマト部会青年部が中心となり、徹夜踊り開催日に当たる8月14日に八幡町の城下町プラザにて郡上産冷やしトマトのPR販売が行われた。

農業普及課職員もこのイベントに参加し、PR販売を支援すると共に産地紹介やトマトの新規就農を勧誘するパンフレットを作成し店内に掲示したり来客に配布した。

PR販売当日は大変暑く冷やしトマトが次々と売れてゆき取組み4年目ということからか一人で10個ほど買っていくリピーターもあり、持ち込んだ約400個のトマトは夜10時頃には売り切れた。お客さんからは「甘くてコクがあり美味しい」との感想や「郡上にトマトの産地があるとは知らなかった」など様々な意見が聞かれ好評であった。

この取組みが郡上トマトの知名度向上に繋がると共に新規栽培者が増えるきっかけになればと関係者全員が期待している。



【冷やしトマト販売】

恵那農林 ■ 水稲 「東美濃産コシヒカリ」極良食味米産地確立プロジェクト活動を開始

岐阜県内においてコシヒカリ栽培にいち早く取り組み、食味が良いことで評価を得てきた恵那（東美濃）地域だが、近年は他県産米等による産地間競争が激化する中、より食味の良い「東美濃産コシヒカリ」産地の早急な確立が望まれている。

このため、生産者、JAひがしみの、中津川市、恵那市、県が一体となり、「東美濃産コシヒカリ」極良食味米産地確立プロジェクト活動を開始した。

8月2日には、恵那総合庁舎において第1回戦略チーム会議（チーフ：恵那農林事務所農業普及課長）を開催し、生産者をはじめ、地元関係機関により、取り組み事項並びに活動計画等について協議し、関係機関が一体となり良食味米の産地確立に向けた活動方針が決定された。

その後、地元産コシヒカリと他県産米の試食も行い、関係者は地元産コシヒカリの美味しさを改めて認識した。

農業普及課では、今後も戦略チーム会議、当該事務局会議等を通じて、関係機関が一丸となったプロジェクト活動の推進に向け活動を継続する。



【戦略チーム会議の様子】

飛騨農林 ■ モモ 県オリジナル品種「飛騨おとめ試食PR会」開催

8月11日、高山市内量販店2店舗において、JAひだ果実出荷組合協議会（組合員115名）が主催する「飛騨おとめ試食PR会」が開催された。

当日は、生産者、飛騨高山高校山田キャンパスの生徒及び先生、農業普及課職員、JAひだ並びに各関係機関担当者が、来店者に対し「飛騨おとめ」試食PR及びアンケート調査を実施した。

試食PRにあわせて店頭販売も行われ、試食した買い物客が早速購入するなど、当日用意した「飛騨おとめ」65kgは大好評のうちに完売した。

農業普及課では、次年度以降の生産量及び販売量の拡大に向けて、指導助言を継続する。



【試食及びアンケートを実施する普及指導員】

農業経営課■酪農 飛騨酪農乳用牛群検定組合研修会

8月17日、飛騨酪農農業協同組合乳用牛群検定組合（組合長：馬瀬口弘志）通常総会と研修会が開催され酪農家等約20名が参加した。研修会では農業経営課の革新支援専門員が「牛群検定でわかる第一胃微生物の住み心地」と題して牛群検定の検査数値（乳脂肪、乳タンパク質、無脂乳固形等）と飼料給与の関係等をわかりやすく説明した。（一社）家畜改良事業団が行う牛群検定事業は、農家が飼育する乳牛個体別に毎月牛乳の品質を検査し効率的で品質の高い牛乳生産を目指す事業で、飛騨酪農は牛群検定事業の参加率が日本一（全戸参加）となっている。全国的な酪農家減少により育成牛価格が高止まりする中、牛群検定を活用して乳牛の病気や事故を防止するとともに、飼料給与の改善により収益性の高い酪農経営の実現が可能となるため、同組合では今後も継続して技術研修会を開催する計画としている。



【乳用牛群検定組合研修】